

家庭学習の手引き：4年生

主体的に学ぶ力を身につけよう



家庭学習では、自分から学習していく姿勢・習慣を身に付けていきます。テストに向けての力を確かめたり、授業の内容を発展させたりする「自主学習」や、自分に必要な前学年の復習をしたり、基礎基本を定着させたりするための「繰り返し学習」に取り組みます。



4年生では・・・

自立心が芽生えてくるとともに、自分でやろうとすることが多くなり、「やる気」や「根気」が育つ時期です。語彙(言葉)の習得能力が高くなり、抽象的な思考ができるようになってきます。

また、周りの状況を見ながら必要なことを自分で考えて行動する力も徐々に求められてきます。宿題でも、自分の苦手なことを克服するために内容を選んだり、テストなどに向けて必要に応じて量を調節したりするなど、自分に合った学習を進めていけるようになっていきます。求められることがレベルアップするため、「勉強が難しくなった」というとまどいが出てくるかもしれません。自信を持たせたり、意欲を高めたりするような励ましをお願いいたします。

学習の特徴

◇3年生で学習した国語辞典だけでなく、漢字辞典の使い方を学んだり、3年生の時以上に地図帳を使って学習したりすることが多くなります。そのため、授業で学習したこと以外にも、これらを活用して自分で調べて知識を得たり、疑問を解決したりすることが必要となります。

◇国語科では、内容によって段落をまとめ、読み手により分かり易く伝えるために工夫して書く力をつけていきます。

◇算数科では、四則計算(+・-・×・÷)の基礎・基本を学びます。特に4年生では、2・3ケタのわり算の筆算や、小数の四則計算の学習があります。これらは5・6年生の学習の基礎となるため、徹底して身に付けていきます。

◇全教科で基礎的・基本的な内容を定着させると共に、友だちと考え合ったり、話し合ったりすることで学ぶ楽しさを感じ、自分に必要な学習を判断して自学自習する力につなげていきます。

◇タブレット端末を用いて調べ学習を進めたり、データを収集したりして、考えを表現します。

◇タブレット端末の基本的な操作ができ、自分の学習に応じて活用する力を育てていきます。



家庭学習を始める前に

- ◇勉強する場所を決めましょう。
- ◇勉強をする場の整理整頓をしましょう。(タブレット端末や地図帳や辞典等をそばに置く)
- ◇テレビや動画等を消して、静かな環境を作りましょう。
- ◇家庭学習の内容を自分の学習状況や目標や課題に合わせて計画を立てましょう。
- ◇学習時間を決めて時間いっぱい集中して取り組みましょう。



家庭学習の内容

自分に必要な教科・内容・量を、自分で考えて決め、学習する。

例えば…

- ★漢字ドリルを参考に、新出漢字を用いた熟語を覚える。ドリルに載っていない熟語を見つけたり、書いたりして語彙を増やす。
- ★国語辞典や漢字辞典を手元に置き、使い方に慣れる。分からない言葉や興味を持った言葉は積極的に調べるようにし、意味を確認するなど、辞書を使う習慣を身に付ける。
- ★わり算の筆算や小数の計算など、正しい計算手順が身に付くよう、位をそろえて丁寧にノートに書いて練習する。答えのたしかめの式を書いて計算し直し、正しく答えが求められているか確認する。また、授業で計算の手順を学んだら、自分で授業の問題の数字を変えていろいろな問題を作り、解いてみる。
- ★自分に合った解き方だけでなく、授業で学んだよりよい方法を使って問題を解いたり、その考え方を図や式、言葉でまとめたりする。
- ★三角定規や分度器、コンパスなどを正確に操作できるよう、作図の練習をする。作図するときは、自分に合った方法だけでなく、問題にふさわしい方法で作図するなど、道具の良さを生かすようにする。
- ★社会科では「都道府県を覚え、漢字で書けるようにすること」が目標にあるので、地図に県名を書き込んだり、それぞれの県の特徴を調べたりするなど、地図帳や資料集を活用して調べ、覚える。
- ★授業で学習した内容で、疑問に思ったことやさらに調べてみたいことなどを、教科書や資料集、タブレット端末などを使って調べ、まとめる。
- ★テストの範囲に応じて、学習内容を考えたり、量を調節したりするなど、自分で計画的に学習する。

